

第46回 カンボジア訪問記

2017年4月21日(金)～4月27日(木)

今回の訪問で46回とは自分でも驚きます。

カンボジアのトローバイク村の子供達が抱える問題を考えると憂います。

問題は重く押し掛かり、とても一個人では解決できず非力さを感じて頭を抱えます。

今回の訪問は当初3月末から4月初旬に実地される予定でしたが通訳のヴッティさんの都合で延期され4月中旬に変更されましたが、ちょうどカンボジアの正月と学校が休みと重なり再び延期されて、ようやく実現できました。その為、奨学生に奨学金授与が遅れ迷惑を掛けました。今後はこの様な事にならない様に致します。今回の訪問目的は奨学生に奨学金授与とアンケート実地、世界児童画展入賞者の表彰、新たに奨学生1人選定、映画会開催。3年生から6年生にボールペンの贈呈、写真撮影と贈呈、図書委員へ感謝の贈り物、各クラスで6つのスローガン唱和の確認、レッケナーの弟に再度自助具進呈センタイの体調確認と対応策、細田さんと山本さん、高松さん、小倉さんから託された届け物、3年以上の家の雨漏りと電気の調査、先生方との懇談会等、今後の支援活動の参考にする為に実地しました。

4月22日(土)

ホテルを6時40分に出発し弁当を調達した後、8時10分に学校に到着しました。以前は悪路で3時間近くかかったので、大分早くなりました。到着時に全校生徒が歓迎してくれて拍手の中を進みます。

支援物資(スーツケースとダンボールを車から降ろして、最初にしたのは写真撮影です。

今回は1年生と4年生の撮影です。5人一組の写真は1年間に1回撮影され、卒業時まで6枚の成長記録が子供達に贈られています。写真を撮る事の機会が少ないカンボジアの子供達にとっては、貴重な贈り物になります。

6つのスローガン



先生方と話し合い、子供達に6年間の在学中に最小限、人間形成必須の事柄を6つのスローガンにまとめ上げて毎日1回は唱和させています。最初は意味を理解出来なくても6年間、お経の様に唱和する事で卒業時には内容を理解し自然に会得出来る様になる事を目標に、子供達は唱和しています。①私は正義を守ります。

②私は礼儀を守ります。③私は清潔を守ります。

④私は人に優しい心を持ちます。⑤私は自分に強い心を持ちます。

⑥私は仏陀に素直な気持ちを持ちます。

このスローガンは、幼稚園児クラスから1年生から6年生まで教室を回り、チェックして回りましたが、驚く事ほどの学年も完璧に言えました。毎日唱和して理想的な人間形成が出来るとは思いませんが、やらないよりは、やった方が良いと確信します。特に⑥の項目はカンボジアの子供達にとって必須項目です。

次々と昼休みに奨学生と親たちが挨拶に訪れます。

レッケナーが挨拶に訪れました。レッケナーに今回も弟の水を飲む自助具を2セット贈り大事に使うように話しました。自助具は活用されていて贈った私も嬉しく感じました。弟が寝たままの食事は危険を伴うので解決しなければならないとは思いますが良案が思い浮かべません。この訪問記を読まれた方々から解決策を教えてくださいと願っています。私との約束(全ての村人に挨拶をする事)は守られていました。

センタイが挨拶に訪れました。佐野さんの支援で、喉の腫瘍手術を受けられました。私自身切除された腫瘍を見ましたが、あのような大きな異物が喉にあったなら具合も悪くなります。病院で献身的に介護する佐野さんの姿に深い感銘を受けました。センタイとも今後の事で話し合い、佐野さんに報告致します。

スレイトーンに何かお土産を届けて欲しいと細田さんから依頼されました。託された金額で「いざ何を購入したら喜ばれるか」と、悩みました。最初は分厚いノートを贈り、勉強に役立たせてもらう事を考えました。スレイトーンと兄弟は長年アトピーで悩み苦しんでいます。皮膚が痒く苦しむのを少しでも緩和させる痒み止めのローションは、カンボジアでは購入出来ません。ポリフェリン症に悩むソムランとヴィラクの兄弟にも、このローションは使わせており効果は実証済みです。その為痒み止めローション2本贈る事にしました。私からも、皮膚障害を持つ二組の家族に潤いを与えるボディローションを贈りました。

ソクーンが訪れました。今ではソクーンは奨学生の最古参です。ソクーンより前の多くの奨学生は、何れも応援団の期待を裏切り、挨拶も無く姿を消しました。堀越さんが2009年4月から教育支援を始めて当時小学4年生、今年で8年目の最終支援期間中で並々ならぬ愛情を贈られて今日に至ります。。4~5年前から胃痛を訴え、私も日本から胃薬のキャベジンコーワ、タケダ漢方胃腸薬から始まり、強力なガスター10などをソクーンに服用するように贈りました。しかし、いずれも効果は無く今日に至りました。

現在ソクーンは高校3年で10月に卒業予定です。ソクーンと再会すると、ここ数日、胃痛がひどく学校も欠席する有様であると話しました。その際中にも激痛の為、顔を歪め胃のあたりを押さえます。ソクーンは昨日に町の医院に行き診察を受け、5日分の薬を処方されたそうです。ソクーンの家は貧しく、現況を抜け出すために高校で学び、同時にCBBと言う日本のNGOで日本語を学んで将来に役立たせたいと、頑張っています。きちんと胃の健康を取り戻さないと、ソクーンの将来の夢実現は叶わないと痛感しました。脳裏に胃の怖い病名が思い浮かびました。2016年11月22日にプノンペンにサンライズジャパンホスピタルと言う日本の病院が開院されました。この病院には消化器科もあり胃カメラでの検査もできます。この時点でソクーンを7月の訪問時に「日本の病院での胃カメラ検査実地」を痛感しました。

ボールペンの特別プレゼント



4月は11月新学期から始まり1年間の中間に当たります。イオンから支援されたペンてるボールペンを子供達に特別に贈る事にしました。11月にはボールペンを使わない1~2年生にも贈りますが、今回は3年生に5本ずつ、4年、5年、6年、奨学生(中学生以上)は1箱10本、教師には2箱(20本)のビックプレゼントを実地致しました。本来ならノートも学習に必須な学用品ですが、ノートは重く日本から持ち込むには適さず残念です。またカンボジアで購入した方が大判で厚いノートが廉価で購入できます。

ホテルに帰路途中、サンライズジャパンホスピタルに立ち寄り診察科目や診察時間を尋ねました。

4月23日(日)

今日は奨学金授与式、8時10分に学校に到着しました。今回から日本の出発日を金曜にしました。これは日曜の奨学金授与以後に滞在時間があれば、奨学生からの緊急要請に対応する為の時間確保の為です。いつもの様に一人一人が名前を呼ばれて奨学金が贈られました。1人1人の奨学生と言葉を交わし、以前と比べ明るくなった顔、相変わらず沈んだ顔、本当の笑顔が見えず憂いの漂う顔、様々です。仲間の支援する15名の奨学生、私が支援する15名の奨学生の未来が明るくなるように願いました。

リ・ブントーオイの母親の小指はすっかり傷が癒えていましたが、小指先端は無く痛々しいです。脱穀機に巻き込まれたと聞きましたが、実際は水を汲みあげるポンプのベルトに小指が巻き込まれての大きな事故である事が判明しました。失った小指を見ると痛々しく、一刻も早く心の傷の回復を祈ります。チェン・パニーは体調不良の為、母親が代理出席でした。プノンペンでの大学での自活は経済的にも厳しく(栄養失調)になりがちで、過去にレッド・ヴィラクの兄が同様に栄養失調で倒れています。

入沢さんの支援する奨学生は次回7月に新たに選定し実地します。あまりにも熟慮しすぎて優柔不断になり申し訳なく陳謝いたします。領収書にサインと拇印を押して、写真撮影を行いました。

村長から昼食会の食事を全員で無く、グループ別での実地を提案されましたが普段の食事は御飯のみで、副食まで食べられない家庭の事情を考えると、厳しい家庭には負担が大きくなり、気の毒に感じます。今後は食事の招待を辞退する事を決めました。厳しい環境下で暮らす人々が貧困から抜け出す事が、支援者にとって、一番の無上の喜びと考えるからです。

奨学生には応援団から、大好評の春日井のグリーン豆が贈られました。

この奨学金授与式には、製靴工場で働くロッターも来訪して、篠原様から特別支援金が贈られました。現在は完成品の靴を最終検査の仕事に携わり、はみ出た接着剤を溶剤で除去する仕事をしています。その際に溶剤が飛び散り目に入る事もあって、医者に行き目を洗って治療を受け困るそうです。この話を聞き日本で花粉症対策の眼鏡を思いだしました。このメガネは横の部分もカバーされていて万全です。次回訪問時に花粉対策用の眼鏡をロッターに贈ろうと購入しました。

2 回目のアンケート実地

今回、応援団では再び生活状況の実態を正確に把握する為、アンケートを実地しました。質問条項は 14 問あります。

①:奨学金の使い方は？①毎月 25 \$ ずつ使う。 ②100 \$ を考えて使う。

答えは、全員、毎月 25 \$ ずつ分けて使うと答えました。

②:お金の使い道は？ ①教育費 ②生活費 ③治療費 ④借金返済 ⑤その他

答えは、教育費に 31% 生活費に 30% 治療に 26.4% 借金返済 11.5% その他 1.1%

③:仕事に行っていますか①仕事をしている ②時々している ③働きたいけど仕事が無い

答えは、仕事をしている 43% 時々している 50% 働きたいけど仕事が無い 7%

④:食事は毎食食べていますか？①三食 ②二食 ③一食

答えは、三食食べる 23% 二食食べる 77%

⑤ 副食は食べますか？①食べる ②時々食べる ③食べない

答えは、食べる 40% 時々食べる 60% 食べない 0%

⑥:家族に病人がいますか？

答えは、病人がいる 67% いない 33%

⑦:借金がありますか？

答えは、借金がある 100%

⑧:なぜ借金をしたのですか。(書き込んでもらいました)

答えは、治療代 47% 生活苦 18% 飼料代 16% 出稼ぎ 11% 教育費 8%

⑨:返済できますか？

答えは、返済できる 73% 頑張るが返済は厳しい 27%

⑩:通学用の自転車は？

答えは、①ある 53% ②家族が多く足りない 43% ③無くて困る 3%

⑪:現在の悩みは？

答えは、借金 37% 生活苦 37% 病気 19% 働きたいが仕事が無い 7%

⑫:電気はありますか？

答えは、ある 80% 無い 20%

⑬:テレビはありますか？

答えは、ある 75% 無い 25%

⑭雨漏りはしますか？

答えは、します 70% しません 30%

村民の借金

このアンケートを実地して感じたのは、借金の実体が生活を大きく押し掛かっています。

「副食は食べますか」の問いに 60% の人が「時々食べる」と回答しています。キムランの家を訪問した時キムランがお使いから帰って来ました。彼女の手には卵が 1 個ありました。親子 3 人で卵が 1 個とは？その時は違和感を持ちましたが、「副食が時々」の回答に、厳しい食生活を感じ納得せざるを得ません。御飯だけで満腹感を求める為、栄養失調になり、やがては体調を壊し、貧困の為に的確な治療を受けられず、相当病状が進んだ段階で借金をして、治療を受けると言う悪循環は続くのです。

借金をするには村長の承諾が必要の為、村長は村民自体の借金を把握しています。

ツウイン村長曰く、「借金をしていない家庭を探すのは難しいです」と話しました。恐らく 100% に近いトローバイ村の村民が借金をして苦しみ喘いでいます。

「自分の収入に対して返済額を考え借りなさい。」と言う、理屈があります。

借金する目的が遊びや賭け事等の場合は、確かに的を得ています。

しかし借金理由の大半がカンボジアの場合、「家族の病気で苦しむ姿を見て助けたい」と治療代捻出の為、已もうえず借金をするのは、病気が完治して働いて返済し幸せになれたら良いのですが、現実には病気が治らず治療費は嵩む事になり借金だけが雪だるま式に増え続ける事になります。

村民はプノンペン病院情報を持っていない為、適切な治療を受けられません。

センタイが病院をたらい回しにされ挙句の果てに病気は治らず、手術を担当した執刀医は 3 回も居留守

や名前を告げただけで、電話を切り逃げ回る姿に愕然としました。その為、センタイは術後の違和感を解消できず、鼻にも問題を抱えている為に、現在も体調が優れず苦しんでいます。

村民の働き口は村内にはありません。女性は運が良ければ縫製工場や製靴工場勤務で150～180\$（早朝7時から夕方18時までの10時間勤務）の就職口がありますが、働けるのは20代の若い女性です。農業の手助けの仕事は、季節があり賃金も安く仕事がいつもあるとは限りません。結婚式、葬式などの手伝いの仕事も、定収入ではありません。いずれも1日5\$未満の低賃金です。村で男性の仕事先は厳しく、農地を持たない小作人は現金収入を求めて大半は出稼ぎに出かけます。出稼ぎと言っても家を出る時に働き口が決まっているわけではなく、現地に行って、そこで必死に職を求めるわけです。出稼ぎをするにも現地までの旅費を工面しなければならず、最初から旅費を用意できる家は少なく、大半が高利貸から借金をします。国内の現場の場合は、いくらかの救いがありますが、タイの就労の場合は正式手続きを得ない不法就業の為、足元を見られ悪質な雇い主に当たれば賃金を全く貰えず、お金が無い為に帰国すら出来ず、已もう得ず家族に助けを求めます。家族は新たに借金をして送金し、やっと家に戻った話を度々耳にしました。

出稼ぎ先での収入の中から現地での食事代を払い過酷な労働を必死に働きます。当然少しでも多くの賃金を家に持ち帰ろうとする為に食事代を切り詰めます。その結果体調を壊し出稼ぎが悲劇のスタートになるケースが多々あります。そして一番の要因が高い利子で、1年間に実に40%もの金利です。250\$を借りると1年間に支払う利息は100\$です。1ヵ月25\$まだこの数字の内は返済できそうですが、やがて500\$を借りると年利40%(年間200\$)の利子が取られます。1000\$で年間(400\$)、2000\$で年間(800\$)、3000\$で年間(1200\$)にもなります。驚く事に3000\$と言う多額な借金を抱える家庭も多く見受けられました。

支払い利子が年間1200\$と言う事は毎月100\$の支払いになります。毎月の収入が80～180\$位の収入で家族の生計を支えています、その中から利子支払いをする事は大変厳しく、借金地獄に落ち元金は全く減らず、ただひたすら40%の利子を払い続けて疲弊していく現実があります。そして娘からの仕送りが給料日の関係で遅れた場合、お金が届かず、利子は払えません。高利貸しは返済を求めます。已もう得ず、違う高利貸から新たに借金をして、利子の返済に宛てます。正に自転車操業です。

一番心が痛むのは、家の借金の為に一心不乱に働き、給料の大半を親に仕送りする健気な働き手の娘です。自分の手元には一月分の食事代だけで、娘盛りのおしゃれを楽しむ事などありません。田畑を有する農家も、最近ではコメの価格が下落して、逆に農薬や肥料代、ガソリン代などが高騰して、おまけに天候不順に出会ったら、目も当てられません。

村民の多額な借金に半ば呆れ果てた私ですが、借金の理由を知って納得せざるを得ない悲しい現実に強い怒りと、簡単に解決出来ない巨大な壁に溜息が出ました。

貧困から抜け出すには・・・働ける環境の整備

時々、山本さんがカンボジア関連のテレビ番組を事前に知らせてくれます。その中にカンボジアで胡椒を一大ブランドに育て上げた日本人の番組を電話で教えてくれました。

カンボジアの胡椒は700年前から品質を誇っていましたが、ポルポトはコメ以外の栽培を許さず、壊滅してしまいました。しかし密かにポルポト以前の胡椒の苗を3本維持した農民がいたのです。その苗から倉田浩伸さんはクラタペッパーをコクコン州のスラェアンバル郡で起業し見事に「カンボジアの赤いダイヤ」と言われる完熟の胡椒に付加価値をつけ幾多の苦難を乗り越え世界ブランドに成長させたのです。現在カンボジアの胡椒生産は世界第6位に成長しました。この様な農場で修業をして能力を身に付けて将来クラタペッパーの契約農家として「トローバイク村において胡椒栽培を手掛ける事業を成功させて、自分の懐ばかりで無く、村民に就職先を提供し人々の生活向上に寄与する人が現れたら、村全体を貧困から脱出させる事が出来るのではないかと、夢みたいなことを想うかべました。胡椒栽培の技術を会得する事は簡単では無く、幾多の困難を乗り越えなければならず、正義感のある若き獅子の出現を心から望みます。何時までもコメだけを他の農民と同じ様にしているのは現況の貧困からは受けられないと思います。多くの村民との会話の中で、新規の農作物やアヒルの飼育などで失敗した話を沢山聞きました。何れもキチンとした知識を習得してから事業を起こしたものでは無かったです。これでは成功しません。

電気の普及率

過って村には、電気はありませんでしたが、ここ数年、電気は各家庭に引き込まれて急速に普及されています。引き込む際は工事代金が100～150\$位かかります。電気が入れば毎月の電気代は、バッテリーからの充電代と変わらず、結果的には電気の方が安定的で良いと言う事になります。

そこで電気の普及率を調査しました。調査対象は3年から6年までの4学年です。

3年生:46人中、28人が電気引き込み済み(61%)。4年生:37人中、27人が電気引き込み済み(73%)。

5年生:35人中、29人が電気引き込み済み(83%)。6年生:39人中、28人が電気引き込み済み(72%)

各学年の平均値は72%となり、村では多くの家で電気が大分普及してきたことを物語っています。

奨学生では:30人中24人が電気引き込み済み(80%)でした。

但し「電気が引かれている」と聞くと夜半明るい文化生活を思いますが、どこの家庭でも中国製の13Wの蛍光灯しかありません。ただ真っ暗闇の世界で、この小さい蛍光灯が過つてのオイルランタンに比べれば、素晴らしき光源なのです。以前はオイルランタンが唯一の光源でした。それが車のバッテリーに代わり、電球の灯りを灯しました。思い起こせば貧困家庭のオイルランタンは、市販製品のオイルランタンでは無く、リポビタンD位の瓶に油と芯を入れた簡易型でした。今回の調査で村全体では恐らく半分近くの家庭で電気を引き込み、光源を電灯の灯りから求めていると推察します。

まさかこの様に電気が普及しているとは思わず、私は今回3台のソーラーバッテリーを持ち込みました。

調査中、オイルランタンを使用中の子供がいました。2台はオイルランタンを使う子供に贈りました。

家庭にある13W 蛍光灯の他は全ての家ではありませんが扇風機とテレビが唯一の家庭電化製品です。

雨漏りの実態

電気と共に雨漏りの実情を調査致しました。ヴッティさんがソクーンに贈った日本語辞書の一部が大きくシミになっていました。「この汚れは、どうして?」と聞けば、雨漏りが原因でした。夜中に豪雨になれば、室内どこにいても雨漏りに襲われます。とても寝てはいられません。今回も多くの奨学生の手紙の文面に悲劇が綴られておりました。

クム・ビーナインの手紙に雨漏りの記述があり、紹介したいと思います。(一部抜粋)

「現在、前の家は叔父さん(母の弟)に管理してもらっています。屋根はボロボロで傷み雨漏りがします。この前、叔父さんの家に泊まりました。夜中に豪雨になり、雨漏りが酷く、寝る場所がビシヤビシヤになり私と叔父さんは、とても寝るどころではありませんでした。その時私は、この状態に苦しみ、あまりの辛さに悲しくなり、思わず涙が溢れました。叔父さんも泣いていました。」

私が子供の頃体験した雨漏りは、部屋の数か所にバケツや洗面器などを置き凌いだものですが、村の雨漏りは、床全体に雨が降り注ぐ最悪の事態になる事が理解できます。

3年生:46人中23人(50%)が雨漏り。 4年生:37人中12人(38%)が雨漏り。

5年生:35人中8人(23%)が雨漏り。 6年生:39人中3人(8%)が雨漏り。

奨学生:30人中22人(73%)が雨漏り

学年により、ばらつきがありますが、雨漏りの現実に、悲痛な叫び声をあげている人々の存在は確認できました。問題解決の為にコーキング剤を調べて一度には無理ですが、小さな対応を試みたいのです。

(ホームセンターで確認したのですが、コーキングは外側から充填が大事だと助言されました。)

平屋の家の屋根でも勾配があり、まして高床式の屋根は高く、尚更、作業は危険を伴うと感じます。

嬉しい再会。



応援団の訪問を知り孤児を我子同様に育て上げたチャンターさんの母親タオン・カエムさんが「お礼をどうしても直接言いたい」と、トローバイ村から350キロ離れたプノアヴィヘアから遠路来訪しました。とても嬉しく感激します。この様に素敵な人間と出会える事は大きな喜びです。(プノアヴィヘアはタイとの国境沿いで近年、国境紛争がありました。)

私は「再びお会いできてとても嬉しいです。カンボジアで貴方の様な立派な方と出会えてとても光栄です。貴方を尊敬してい

ます。」と話し互いに再会を喜び合いました。私は自分に出来る範囲でカエムさんを称えたいと考え、交通費の一部にと現金、持参したお菓子、ソーラーランタン等のお土産を贈りました。カエムさんとの再会は私にとって嬉しく、素晴らしい一時でした。プノアヴィヘアの住まいは、森の中で次男と瘦せた土地に芋を植えて厳しい生活を営んでいるとの事。恐らく母親とは今回の再会が「今生の別れ」であると思います。別れ際、互いに手を握り合い「何時までもお体を大切に、お元気でお過ごしください。」と、別れを惜しみました。私はカンボジア人の様に前世や来世は信じませんが、今後の母親の人生が貧困から抜け出して幸せに過ごせる様に心から祈りました。左がカエムさん、右が息子のチャンターと奥さんです。

24日(月)

世界児童画展入賞者への表彰式を行う予定ですが、各学年別に実地される為に(担任が自分のクラスの入賞作品だけを把握し見る事が出来る)それでは教師全員が鑑賞できず指導上大きな弊害があります。この反省から表彰式前に教師との懇談会で、ラミネートされた入賞作品を見せ、優れた点や助言すべき点などを教師全員で話し合い、今後の指導の上で参考にしていただきたいと懇談会を10時から予定しました。その後に入賞者へのメダルや額入り表彰状、賞品の授与を各クラスで計画しました。

数の上では増えて今回入賞数は41人、25人(60%)がソピー先生のクラスでした。ソピー先生は絵の教育において熱心に取り組み結果に表れたと感じますが、教師全員が厚き情熱を持って指導をする現状ではありません。子供達の絵は低学年から高学年への学年別の差が全体的に乏しく欠点ですが、「教師全員が力を合わせ適切な指導を学年別に行う事で解決できる」と感じています。先生方に毎回、外務大臣賞を受賞するコスタリカの話をしつづけます。お絵かき教室からの参加ですが指導者にとって世界児童画展受賞が教室のステータス向上に直結するので熱き指導の下、輝かしい結果をもたらしています。絵画教育を実地して今年で17年目、最初の10年ぐらひは毎年レベルアップを感じていましたが、その後は停滞気味と感じています。私自身も仕事の幅が増え続け、以前の様に直接指導する機会を失ってしまいました。しかし日本から参考になる作品を持参して、懇談会で何回も先生方に指導法を伝授した結果、ソピー先生の様な良き教師が1人誕生しました。今後は他の教師にも的確な指導を願っています。そしてコスタリカと同様に素晴らしい絵が誕生させられると確信します。私も今回の滞在中に過つての様に直接子供達と絵と関わり、共に楽しみながら絵を描く時間を作り、授業をしたいと考えました。

ソクーンが来訪、挨拶を交わします。顔を顰めて胃の部位を抑えます。このまま7月訪問時では、手遅れになる可能性を恐れ、サンライズジャパンホスピタルで午後の診察に間に合わせて受診させる事に急遽、決めて帰路に着く事にしました。

ソクーンが健康にならなければ、彼の将来の人生計画は全て台無しになります。

病院に着き受付を済ませ待合室で待ちます。私の脳裏には怖い胃の病名が浮かび心配でした。やがて名前が呼ばれ日本人医師の診察が始まりました。ソクーンが病状を述べ、私もこれまでの経過を話しました。医師は明日、胃カメラでの検査を提案しました。「願っても無い事」で、検査をお願いしましたが、脳裏には「支払金額」の不安が浮かびました。「手術」では無いと、自分に言い聞かせて承諾しました。会計で支払いの時、本日と明日の胃カメラ検査までの支払いを請求された事に驚きましたが、何とか持ち金範囲内ギリギリで安堵して支払いを済ませました。

プノンペンに帰りソクーンは泊まりました。レストランでのソクーンの食事は大事を取り、おかゆにしました。

25日(火)



一応、前日に本日の胃カメラ検査の予約をしましたが、早く行けば早く受診の順番が取れる事を願って7時にホテルを出発しました。サンライズ病院の受付は40分に開始され順番は一番でした。待合室で待っていると、ラベルに病院名の入った水のペットボトルが配布されます。病院スタッフは、患者に必ず視線を合わせる為に膝をつけて対応していました。笑顔での対応も当たり前、日本式の「おもてなし」が随所に見られます。検査を受ける前に看護師から説明を受けました。「もし検査中にポリープが見つかった場合、1個なら350\$、

2個なら450\$、3個なら550\$、4個以上は650\$です。}と説明を受けました。説明を受けている最中、頭の中はパニックでした。カードは所持していましたが、ポリープが無い事を祈るだけでした。8時50分にソクーンは検査室に入りました。暫くしてから私が検査室に呼ばれ、胃カメラの検査を一緒に見る事になりました。ソクーンは意識があると思いましたが実際は、麻酔で眠らされていてそれでも苦しいのか、うめき、体を動かし3人の看護師に体を抑えられていました。素人の私が見ても胃の内部に異物(ポリープ)は見当たりませんでした。日本人医師の説明によれば、「とても19歳の若者の胃とは思えません。老化している。胃の壁が大変荒れています。ポリープや癌は、全くありません。」この説明に私は安堵いたしました。素人の私が見ても赤みを帯びた胃の壁の疲労が感じられました。「このまま放置したら、いずれはポリープや癌へと進行する」と、思うと恐ろしくなりました。検査後、日本人医師はカンボジア人医師に英語で病状を伝え、ソクーンにカンボジア語で伝えます。やがて先生は私に、ピロリ菌検査を提案いたしました。私は「明日帰国する事を伝え検査の為に通院が出来ないのです。」と話しました。ソクーンが町の医院から処方された薬を見せて、意見を求めました。先生は個々の薬を確認して、金色の外装の薬は、ガスターより強力に胃酸を抑える胃薬である事を説明しました。また他の薬の効能を述べました。医学的知識の無い私ですが、薬が想像以上に的確な処方である事に安心を感じました。私達は日本人医師にお礼を述べ病院を後にしました。ソクーンに寄れば「今まで町の医院で処方された薬は5日分しか服用した事が1回も無い」と話しました。この中途半端な服用の繰り返しが、胃を想像以上に老化させ荒れている要因だと、確信しました。病院からはA4サイズの病状説明書が渡され、その一部に胃カメラの写真が印刷されていました。とりあえず安堵した私達は、一路トローバイク小学校に向かいました。学校に着くと午前中の授業は既に終わっていました。心配したソクーンの母親が来訪し、今回の胃カメラ検査のお礼を述べました。母親に重大な病状では無い事を告げて、ソクーンには2ヵ月分の胃酸を抑える薬を服用する様に厳命し、町の薬屋で購入する事を話しました。5月30日現在ソクーンの容態はまだ完治していません。心配です。

校長不在の小学校

現在、トローバイク小学校には校長がいません。ルーン前校長は3月で定年退職しました。最初のプルー・パーの様に奨学金を盗み発覚を恐れ、奨学生を恐喝する最低の校長に比べると、ルーン前校長は典型的な公務員タイプで、決められたことは実直にやり遂げるタイプの人でした。ハァー副校長は以前、「校長になりたい」と、私に話した事があります。最近では校長と言う職務が「いかに大変かと理解して以前とは考えが変わった」との印象がありました。小学校には自分が校長になり積極的に改革を目指すタイプの教師もいますし、穏健なタイプの教師もおります。いずれの教師も能力的には申し分ありません。そして「水面下での動き」を承知していましたが私が望む事は子供達の為に全身全霊を持って教育に身をささげてくれれば、誰がなっても歓迎すべき事なのです。しかし、コンポンチャム州局長の話で本来は、「次期校長は副校長が半ば自動的になる事になっている」との話を伺っていましたので、この時期迄の校長不在は理解できませんでした。全ての教育者がコンポンチャム州の教育局長のように子供達の教育向上が、カンボジアの国力を上げて人々に幸せをもたらすと強い信念で職務に当たっている教育者もおりますが、ただひたすらに自分の懐を満たす為だけの手段として職務を活用する、教育者とは言えない輩も存在するのです。バティ群教育局長が、「なぜ、この時期に至って任命していないか」このあたりがカンボジアの闇の部分の象徴として表れています。これ以上はあからさまに書けません。ご想像ください。」

*5月30日に私はヴッティさんに校長人事を問い合わせました。呆れました。まだ決まっています。

翻訳した手紙から

現在30人の奨学生の内、小学生は6年のマネートとキムランの2人だけで、11月からは中学生です。奨学生との緊密な意思の疎通は、残念ながら十二分に多くの時間を割く事は(言葉の問題もあり)出来ません。そして奨学生と親の性格もあり積極的に打ち解けにくいケースも、見受けられます。私としては、奨学生の顔つきを見て「何か辛い事があるのではないかと、積極的に話しかけます。時には順番に図書室の片隅で奨学生や親を交えて話を聞き出し悩みや解決策を話し合う事を心がけています。だからと言って全ての問題を解決できる能力はありませんが、少しでも辛い思いをしている人に寄り添い自分に出来る器の中で力になりたいと考えています。その意味で奨学生が支援者に書く手紙は

大変重要な意義を持っています。日曜の奨学金授与式に手紙の用紙を配り、受け取った手紙は往復の車中でヴッティさんに翻訳してもらいます。滞在中に問題を把握できた場合には出来る範囲の対応を心がけています。スレイトーンの手紙に、長男のアトピー皮膚病が悪化、皮膚が極度にバリバリに乾燥して苦しんでいる事。医者に行っても治せず、カンボジアの祈祷師に頼みましたが治らず、兄の事を想う心情が綴られていました。この手紙を読み、プノンペンに帰着後、ラッキースーパーマーケットに行き、ヴァセリンのワセリンのクリーム2個、同じくヴァセリンの超乾燥肌用のボディローション1本、ニベアの乾燥肌用乳液1本を購入しました。これらを皮膚の違う場所に塗布して、どの製品が有効かを必ず知らせる様に話して、バリバリの皮膚で苦しむ兄に使うように贈りました。たまたま滞在中に手紙の翻訳が出来た事で、非常に幸運でした。(5月12日にスレイトーンからの連絡で「兄の皮膚は大変良くなった」と、知らせがありました。(どの製品もひび割れたバリバリの超乾燥肌には、何れも素晴らしい効果があったとのことです。)



しかし、いつもこの様に滞在中に問題を知り、対応できるわけではありません。何時も明るさが無く、「辛い悩みを抱えているのではないかと、何となく感じた奨学生がいました。5月28日に大崎にて、リアン君と佐野さんのお蔭で翻訳が出来ました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。翻訳された手紙には、「やっぱり」と言うか、奨学生の手紙に辛さの気持ちが綴られていました。滞在中に寄り添えなかったことを、悔やみました。

26日(水)

先生方との入賞作品への検討会を通じて指導能力向上を計画しましたが、実現出来ませんでした。また今回こそ子供達と一緒に楽しく絵を描く事も時間が取れず、また先送りです。今回は訪問日程が1日短く、予想外の出来事多発で予定は狂いました。あまりにも解決すべき難題や課題が押し寄せて頭を抱えます。



2000年に建設した校舎は雨期になれば、たちまち浸水します。当初、校庭が湖水になった場合を想定し、入口付近だけ堤防を作成する事を思案しましたが、湖水になる前の校庭に豪雨が降りそげば堤防の内側にも豪雨が襲い浸水し何の効果も無い事に気付く自分の考えの浅はかさには呆れ果てました。解決するには先立つものが必要で、溜息がでます。お別れには授業が無いにも拘らず、沢山の子ども達が見送りに駆けつけてくれました。

空港で卒業生との再会



やっと空港に着きました。いよいよヴッティさんともお別れです。その時見知らぬ1人の青年が私達の前に笑顔で現れ握手を求めて来ました。私もヴッティさんもこの青年の出現に「キョトン」としました。全く記憶に無い青年だからです。青年はトローバイク小学校の卒業生でスー・ソニーと名乗りました。「小学校在校時には、中村さんに大変お世話になりました」と、感謝の言葉を言われました。恐らくヴッティさんがトローバイク小学校応援団の通訳の仕事に入る以前の事だと思われました。ソニーは、「私は世界児童画展で2回も受賞した」と、嬉しそうに話しました。やはり子供にとっては、世界児童画展での受賞、そして額入り賞状、メダル、賞品は、人生において鮮烈に焼き付き、大きな喜びをもたらしていると、認識しました。私はソニーに「なぜ空港にいるのですか」と尋ねると彼は「これから韓国に出稼ぎで出発します。」と答えました。私は彼に「体には十分気を付けて働いて下さい」と話しました。この思いがけない再会に大きな喜びを感じましたが、反面カンボジアで仕事を得る事の困難さを改めて感じました。ソニーが韓国で仕事をやり遂げ家族に幸せを持って元気に帰国できることを祈りました。

ご支援者にお願ひ

奨学金を御支援下さり、心より感謝申し上げます。
ご支援者からの手紙は、奨学生にとって大きな励ましを与え、やる気を奮い立たせます。
どうか、便箋1枚でも良いですから写真と共に、手紙を書いて頂きたいです。
宜しくお願ひ致します。必ず翻訳をして、責任を持って奨学生に届けます。 中村利夫。

生きがいと喜び発見の旅 トローバイク小学校訪問ツアー

カンボジアの小学校を訪問しませんか。 トローバイクの子供達と出会う感動の旅です

温もりのある手と、優しい眼差し、微笑みは、世界中 どこでも通じます。
子供達と 共に学び、共に遊び 共に喜び 支援活動をして下さる方々を、望んでいます。
この活動に参加される皆様は(人生最大の生きがいと喜びを)感じられる事と、確信致します。
このツアーは観光旅行では得られない、現地の子供達と心の触れあふ素晴らしい体験が出来ます。

2017年度の訪問は、 7月 (6月30日～7月7日)
11月 (11月23日～11月30日)に、訪問致します

カンボジアへは念願の直行便が、全日空が就航し訪問が大変楽になりました。
格安航空券確保の関係上、早い申し込みがお得だと思います。(全日空利用予定)



旅行費用は年度により変わりますが、120,000円前後です。(参加人数によっても変わります。)
プノンペンでのホテル代(朝食付)、車両移動代。
通訳代を含みます。(米\$支払でお願いいたします)
個人保険・ビザ申請代(30\$)・現地食事代(昼食と夕食で1日10\$位)は、自己負担です。
現地での買い物などの支払いは、カンボジア通貨の両替は不要で、全て米\$支払が可能です。

パスポートは、入国時前に6ヵ月の有効期間がある事を求められます。ご注意ください。
支援物資を運ぶ為、貨物室の荷物枠2個ですが、1個は応援団に提供して頂きます。
カンボジア入国ビザ(30\$)は現地プノンペン空港で取得します。4.5×3.5cm写真1枚が必要です。

訪問日程に関しては途中離脱も可能です。詳細はお問い合わせください。

トローバイク小学校応援団

〒358-0053埼玉県入間市仏子1332-2 TEL 04-2932-0750
メールでの問い合わせは、E-mail trobekelementaryschool@ybb.ne.jp
ホームページは、URL: <http://www.trobek.org/>

銀行お振り込み ゆうちよ銀行、店番号(019店・ゼロイチキョウ店)、預金種目(当座)、
口座番号(0258991)、受取人(トローバイクショウガッコウオウエンダン)
郵便局お振込 郵便振替口座番号(00140-9-258991)、
受取人(トローバイク小学校応援団)